

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300054		
法人名	社会福祉法人 星野村福祉会		
事業所名	星寿園グループホーム ほしのさと		
所在地	福岡県八女市星野村10779-7		
自己評価作成日	令和3年1月22日	評価結果確定日	令和3年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和3年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2019年8月から開所10年目に入り、落ち着いてきたかと思っていたところに、新型コロナウイルス感染防止のため、面会が禁止になったり、慰問をして頂く事ができなくなったり、楽しみにされていた色々な行事が中止になり出掛ける機会も少なくなりました。がその分職員が色々なアイデアを出して夏まつりを計画したり、敬老会やクリスマス会では出し物を披露したりゲームをしたりして、ご利用者様に楽しんでもらえる様にと努力し、2020年をご利用者と共に笑顔で楽しく過ごせました。又、2年間の間に3名の看取り介護にも取り組み、ご家族に看取られ最期を迎えられた事に感謝の言葉を頂く事もできました。ご利用者の笑顔を見る事と、ご家族のご意向に添う支援を継続し、この自然の中で楽しく過ごせる施設を目指します。

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 野グループ/星寿園グループホームほしのさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念はあるが、事業所の理念作成に至っていない。ユニットの理念は過去に作ったままのものであるが、月目標をあげて、申し送り時唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の前は、地元の方の踊りの慰問等あったが、現在は出来ていない。又、地域への参加も困難な状況だが、夏祭りで作ったヨーヨーを、移転された保育園に持参したり、園児さんから敬老の日プレゼントを頂いた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症の理解や支援の方法等話す機会は設けていないが、運営推進会議に区長や民生委員に出席してもらい、認知症の理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議は開催、内容は、利用者の状況報告や、活動報告、ヒヤリハット報告を行っているが、コロナ禍に於いては2ヶ月間の報告として資料で報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方には運営推進会議にも出席して頂いている為、GHの状況は把握して頂いている。コロナ禍においても、空き情報の連絡を取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せずセンサーで出入りの確認を行っている。時々手動にしている時もある。身体拘束について、資料で職員には周知行っている。センサーマットについては、ご家族に同意頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加がなかなかできないが、ケア会議等で勉強会行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、野グループでは活用されているご利用者はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の際、施設内を見学して頂く。ご家族・ご利用者様と共に説明を行い、納得の上で契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月に運営推進会議を開催し、地域の役員やご家族から意見を聞いている。又、面会時にご家族の希望等を伺う様にしている。現在、新型コロナ対応の為、会議は中止、面会は禁止、意見の集約ができていない。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや毎月のケア会議等で意見等を出し合い話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回人事評価を実施している。その他施設長が、個別に面談を行い、聞き取りを行いながら、職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集、採用に関して差別的なことはない。職員の年齢層が10代から70代と幅広く、1日の業務は勤務表に基づき行っており、職員の特徴、得意分野を活かしてケアを行っている。資格取得も勤務を考慮してもらい、資格取得に努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で勉強会を行い、高齢者虐待防止法等の研修にて、ご利用者様の尊厳を守る介護を心掛け、ご利用者様への対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	例年であれば、施設内勉強会や外部研修会への参加をしているが、新型コロナ対応で施設内少人数での知識共有などを実施している。初任者研修と実践者研修をそれぞれ1名ずつ受けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナ対応にて、外部との交流は直接対面の交流はやっていないが、電話等にての外部交流は行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者をご本人と面談を行い、困っていることや要望を聞き取り、プランに反映させ、ご本人との関係づくりを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居に至るまでの間で困っている事や要望などを聞き取り、プランに反映させている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を聞き、担当職員も含めたメンバーで支援を検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえ(野菜の皮むき等)などを職員と一緒にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回の定期受診を実施した際の状況等、日頃の様子を電話連絡したり、毎月一筆箋で近況報告も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事は新型コロナにより中止になったが、外出援助を行っている。買い物や自宅を見たいなどの要望があった時に外出支援を行っている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立されない様に人間関係を観察し把握して、トラブルなどが生じない様に職員が支援しながら共同生活ができる様に働きかけを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方やそのご家族から相談があれば支援を行う様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中での言動や行動の変化変化や意向の把握に努め、思いをくみ取るように努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集を行うと共に、入居されてからも疑問点など気付いた時はお尋ねして必要な情報を頂き、サービス利用に繋がられるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からご利用者様の様子観察を行い、体調の変化、心身状態等、常に把握して気付いた点は記録に残し情報の共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者よりご本人・ご家族からご要望をお聞きし、毎月ケア会議を開き、職員全員にて検討し介護支援計画の作成に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌や申し送りなどで情報収集し、スタッフ間で情報の共有をしている。これらの情報を踏まえて介護プランの見直しもしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望を聞き、個々にその時生じた事柄にできる限り沿うことが出来る様に柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年毎月、民生委員の慰問を頂いているが、新型コロナにて実施できていない。星野村は茶業が主産業で、幼い頃より茶摘みをされており、毎年施設内にて茶摘みを実施、その時は全員生き生きとされている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設主治医は殆どの方が入居前からのかかりつけ医であり、ご利用者・ご家族との信頼関係はできている。毎月1回の定期受診も実施。専門医受診は主治医がご家族の意向を伺い紹介状にて受診している。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきがあった時は看護職員などに報告相談し、必要であれば受診をする。結果、治療方針等を申し送りなどで共有し、統一した支援が出来る様にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行い、退院時は医療機関より電話やサマリーなどで情報を得ている。入院中は面会に行き、ご利用者の経過等や身体状況の把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時現在のご家族の思いなどをお聞きし、事あるごとに意向を伺いながら、終末期のありかたについて食い違いが生じない様に、主治医・ご家族・施設で話し合いを行い、安心できる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、ケア会議時などで全員に研修、再確認をしている。定期的を実施することにより的確な対応ができる様にしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署指導による火災避難訓練(昼間・夜間想定)は実施しているが、地震や水害の際の訓練は行っていない。マニュアルは作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の心身の状態に応じた穏やかな声掛けや対応心がけている。同性介助を基本として、排泄では他者に分からない様に注意し、入浴介助では身体の事で気にしてあることには触れないようにしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で要望や誕生日に食べたいものを聞いたりしている。また、ケアプランの短期目標検討時、ご本人から希望や意向をお聞きしている。入浴日にご自分で着替えを用意されている利用者もいらっしゃる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、そのご利用者のやりたい事や行きたいところなど希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床したら鏡の前で洗顔や整髪などの支援を行っている。敬老会や新年会にはおしゃれをしていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に食材を揃えたり、皮むきや切ったりして料理を作っている。後片付けをご利用者で分担して後片付けで皿洗いやお盆・食器拭きもしていただいている。誕生日には好きな食べ物を提供する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当が栄養バランスの良い献立を考え、各人の摂取量や形態(キザミやミキサー、トロミ等)に合った食事を提供している。水分は食間に2~3回提供、夜間は居室に水分補給用のペットボトルを置いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯は取り外して洗浄して頂く。できない方は職員が介助する。嗽ができない方は口腔ケアティッシュで職員が口腔内を拭き取る。週1回入歯洗浄剤で洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを共有し、定期的な排泄の声掛けをして失禁を減らすようにしている。パッド等の容量の検討等行いながら全員トイレでの排泄を重要視している。夜間ポータブルトイレ使用されている方もある。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認をし、主治医の指示の元、排便パターンによる下剤の服用を頂いている。日中、歩行訓練や体を動かす声掛けをしている。また、冷たい牛乳やヨーグルトの摂取も頂いている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴日を決め入浴して頂いているが、体調や状況に合わせて調整を行っている。特に血圧が高めの方は違う日に入浴して頂いたり、長風呂の方には声掛けにて適度な時間で入浴して頂いている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の身体状況や希望に合わせてベッドの高さや傾斜の調整をしたり、安全の為、部分的にベッド柵を使用して安心して休んで頂いている。昼食後など日中、希望される方は居室にて休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の現状や定期や臨時受診の結果をノートに記入、申し送りで報告し、職員に周知している。薬の詳細はファイルし、閲覧できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「何かさせて下さい。」と言われる利用者には食器拭き、洗濯物干しやたたみ等の手伝いをして頂いている。また、楽しみで塗り絵をされたり、天気の良い日にはドライブや日向ぼっこなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、職員と一緒に散歩に行ったりしている。新型コロナ対応でご家族の面会が出来ないが、以前は、ご家族と一緒に自宅に行ってもらったり、近隣のドライブもして頂いていた。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時、お金は持ち込まないようにお願いしているが、お金を預けて必要なものを買っているご利用者はいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者より電話の希望があれば、ご家族や希望の所に電話をかけて話をして頂いている。携帯電話持参されている方は、自由に電話されている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るくて広いホールがあり、皆さんと一緒にテレビを見たり、レクをしたりしている。エアコンや加湿器、空気清浄機など設置し、健康面に留意している。また、毎月担当を決めて、壁面装飾も行い、洗面所に花を飾ったりして季節感を出している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファでくつろいだり、テーブル椅子でご利用者同士談笑されたりされている。テラスで外気浴もされている。最近、癒しになるように猫も飼っていて、テラスでくつろがれている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものを持って来て頂いたり、壁面にご家族やお孫様の写真を貼ったり、誕生カードを装飾を施したりして、心地よく過ごして頂いている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室はご家庭にある普通のユニットバスで手摺りも設置している。廊下やトイレにも手摺りを設置している。ベッドサイドにも支援バーを設置し、自立できる支援をしている。		